

<巻頭言>

炉物理人材足りていますか？

令和6年3月29日

大阪大学 北田孝典

近年、原子力関係の人材育成事業プログラムは、多くの機関・組織で精力的に実施されており、学生だけでなく若手の研究者・技術者の育成が行われています。炉物理学の分野においても、学生対象の人材育成事業が非常に多く実施されており、学生たちが炉物理学の分野で活躍できるよう、さまざまなプログラムやイベントが展開され、その成果も見られるようになってきています。若手研究者や学生が炉物理学に興味を持ち、その分野でのキャリアを築く機会が増えていることは喜ばしいことです。

一方で、関連施設の漸減などの状況が続いています。炉物理学を教えるための施設や設備が減少していることは、教育環境や研究の質に影響を与えることとなります。また、炉物理を教える人材の不足も深刻な課題です。炉物理部会に身を置いていると、周りには炉物理に長けた方々が多く、以前と変わらず多くの炉物理人材がいると考えがちですが、特に炉物理学の専門知識や技術を持つ経験豊富な教員が不足してきており、その育成が喫緊の課題となっていると考えています。

学生対象の人材育成事業の強化や、関連施設の活用効率の向上、炉物理を教える人材の確保と育成など、さまざまな取り組みを推進しつつ、炉物理ロードマップにも記載されたこれらの取り組みを、炉物理学の分野の発展と人材育成に向けた重要な一歩となることを期待しています。

最後に、本号の制作に携わった全ての関係者に感謝の意を表します。皆様のご尽力により、本部会報が完成しましたことを心より感謝申し上げます。